

令和 4 年 6 月 16 日現在

機関番号：13201

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K18538

研究課題名（和文）中露国境資源地域のポジショナリティ研究：資源係争地ローカル・モデルの帰納的構築

研究課題名（英文）Positionality Changes in the Sino-Russian borderlands: Searching for a Local model of Resource Economy

研究代表者

堀江 典生 (Horie, Norio)

富山大学・学術研究部社会科学系・教授

研究者番号：50302245

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、利害対立が生じている資源辺境地域のポジショナリティが、地域住民、移民、政府、内外資本などナショナル・アクター、ローカル・アクター、そして外国アクターなどが交差するなかでどのようにポジショナリティを変容させてきたかを中露国境地域の資源係争地において明らかにした研究である。中国による違法な土地収奪や中国人移民労働者の流入など、現地で広がる中国への警戒感には根拠がないことを実証した研究である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日中および日露関係が膠着もしくは悪化するなか、中露戦略的パートナーシップの発展やロシアの東方政策の行方に関心が集まっている。欧米の研究においては、ロシアと中国との関係は脆弱であり、ロシアは中国の経済的圧力や移民圧力に脅威を頂いているとの認識が定着していた。そうした認識に呼応して中国資本による土地収奪や中国人移民問題を論じる研究は、いまだに散見されるものの、実証的に分析された研究は皆無といってよい。本研究は、現地のポジショナリティの変化に関与する諸アクターを丹念に観察することで、脅威とされる土地収奪や中国人労働者の大量流入に根拠がないことを明らかにしている。

研究成果の概要（英文）：This project examined how the positionality of the contested area has been transformed at the intersection of national, local, and foreign actors, who represented government, local residents, migrant workers, domestic and foreign investors. This research focus on the resource contested borderlands in the Russian Far East and demonstrated the widespread alarmist discourse, such as illegal land grabbing by China and the influx of mass Chinese migrant workers, has no evidence.

研究分野：地域研究

キーワード：ボーダースタディーズ ポジショナリティ 資源辺境地域 中露関係

1. 研究開始当初の背景

中露国境地域では、中国資本によるロシア国境地域の土地収奪が頻繁に報道され、地方政府が中国資本による土地取引に敏感になるとともに、中国人農業労働者の締め出しを行うなど、沈黙化しているはずのロシアの中国脅威論を煽る事象が見られる。欧米における当該地域の研究は、中露関係を脆弱な関係として描き、ロシアが中国からの経済圧力、人口圧力に強い警戒感をもち、土地収奪や大量の中国人移民・労働者の流入が地域の不安となっていると論じる傾向になる。ロシア語文献においても、総論として中露戦略的パートナーシップが地域開発に貢献することを期待する一方で、ローカルな視点を提示する研究においては、違法な土地利用や中国人労働力活用を問題視する研究が散見され、地元土地所有者や農業従事者、そして中国人資本や中国人労働者のローカルな地点における交差に見られる利害対立とその解消・融和のプロセスが見えない状況にある。中露国境地域の経済地理情報とともに、ローカルなコンテクスト、および地域の資源にアクセスする様々な経済主体の利害を分析することで、ローカルな係争地にこだわった地域の特異性に着目し、そこから紛争解決や地域発展を考える新たな帰納的取り組みが求められていることから、本研究を実施することとなった。

2. 研究の目的

本研究は、紛争や利害対立が生じている資源辺境地域のポジショナリティが、地域住民、移民、政府、内外資本などナショナル・アクター、ローカル・アクター、そして外国アクターなどが交差するなかでどのようにポジショナリティを変容させてきたかを研究する経済地理学および政治学分野における新たなアプローチを採用し、本研究では、農地という辺境資源を巡って、中国資本、中国人移民労働者、連邦政府、地方政府、地元土地所有者、地元農業従事者の利害が交差する中露国境地域の資源係争地ポジショナリティの変容を丹念に観察し、ローカルな地点における諸利害関係者の交差に見られる利害対立とその解消・融和のプロセスを提示することを目指した。こうしたポジショナリティ変容の研究は、資源係争地をローカルレベルで観察し、地域の特異性を踏まえた資源係争地域のローカル・モデルを提示することが可能になり、ボーダースタディーズに新たな知見を提供できるものと考えられる。

3. 研究の方法

経済地理学では、経済主体の特定のローカルな空間における選好は、強く彼らの社会的空間的立ち位置によって影響を受けるとし、様々な経済主体が交差するローカルな「アッサンプラージュ」に着目した研究が生起している (Sheppard, 2013)。そうしたローカルな空間の様々な経済主体の交差は、ローカルな文脈に敏感であることから (Barnes and Hayter, 2005)、ローカル・モデルを志向するポジショナリティの変容に関する研究が生まれている。シェパードやバーンズらの研究グループは、特に、辺境資源地域においてそれがより鮮明に研究できるとし、Kortelainen and Rannikko (2014)は、そのアプローチをフィンランドーロシア国境森林資源地域に適用し、ポジショナリティ・シフトという概念から係争地のローカル・モデルを描いている。こうした接近法は、経済地理情報とともに、ローカルなコンテクスト、および地域の資源にアクセスする様々な経済主体の利害を分析することで、ローカルな係争地にこだわった地域の特異性に着目し、そこから紛争解決や地域発展を考える新たな帰納的取り組みであったと言える。

4. 研究成果

本研究の趣旨、目的、方法論に沿って研究を進めた最大の成果と位置づける研究成果は、近刊の英文叢書に所収される本研究の成果は、“Chinese Land Deals and Migration in the Russian Far East: Positionality Changes in the Borderlands” (Horie, 2022)と題する論文である。本研究の趣旨、目的、方法論に沿って研究を進めた成果である。この成果は、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター2020年度国際シンポジウムにおいて発表を行い、討論者として参加したミドルベリー国際研究大学院モンレー赤羽恒雄名誉教授より高い評価と有益な示唆を得た。翌年に故人となった先達からの評価と示唆を踏まえて刊行される本書論文は、2006年に赤羽氏がアンナ・ワシリエワと共に編著刊行した“Crossing national Borders: Human Migration Issues in Northeast Asia” (Akaha and Vassilieva, 2005)以来、多くの研究者が中露国境地域の中国人移民問題に着目してきた研究の潮流に属する。中国人移民が脅威として論じられていた2000年代までとは異なり、本研究論文では、中国人労働力流入に警戒感が強く、地方政府が厳しく規制を実施するアムール州において、規制以前から実際に流入する中国人農業労働者数は少なく、また、ユダヤ自治州では逆に中国人労働力を農業開発に不可欠な人材として歓迎するなど、地方政府の姿勢が地域のポジショナリティに影響を与える一方、国境地域の過疎化によりそもそも地域住民は不在であり、中国投資家は行政的な規制に阻まれ、積極的に地域のポジショナリティに影響を与える存在ではなく、受動的な位置づけであることを明らかにしている。

本研究は、当初計画では2020年度を最終年度としていたが、新型コロナウイルス感染拡大の

影響により、最終年度に実施する予定であった現地調査を行うことができなくなった。その対策として、二方向の派生研究に注力することとなった。第一の派生研究は、ロシアにおける反移民感情をよりローカルレベル、さらには、特定の空間にまでリスケールすることで、地域市民と移民との間の境界の構成のされ方を検証する研究である。この成果は、羽場久美子編著『移民・難民・マイノリティ：欧州ポピュリズムの根源』（2021年、彩流社）に所収された「ロシアにおける移民のランドスケープ：ルイナックと反移民感情」を代表的研究成果としている。この研究成果は、欧露部の反移民感情を研究対象とし、中国人移民が代表的な移民像であるロシア東部とは大きく市民の反移民感情の発露も異なると予想され、岡洋樹編『移動と共生の北東アジア：中蒙露朝辺境にて』（2020年、東北大学東北アジア研究センター）に所収された研究成果「ロシア東部のルイナックにみるランドスケープ：中国的なるものの進化」と対をなす。これにより、中国脅威論がいまだに多くの研究者で論じられるなか、ロシア東部においては中国人移民像が大きく変容しており、反移民感情の発露もコーカサス諸国や中央アジア諸国からの移民が市民の移民像の中心である欧露部に較べ穏やかで共生的・多文化的であることを明らかにした。

第二の派生研究は、本研究の今後の方向性を開拓する研究である。ロシア極東の国境地域では、中国人による不法な土地収奪が行われていることが懸念されていること、中国人投資家による大規模な農地取得が地方政府知事の更迭にも帰結するほど中国人投資家への視線が厳しいことなどから、多くの研究者が土地収奪の仕組みや課題を論じている。しかし、実際にどれほど中国人投資家が農地を取得し、どの規模で不法な耕作が行われているかについて、実証研究は皆無である。このことに着目し、ロシア科学アカデミー極東支部地域問題複合分析研究所およびリモートセンシング分析や植生分析の専門家と協力し、衛星画像を用いた農地計測をユダヤ自治州国境地域の二地区で実施し、その農地計測結果が1998年においては公式統計に比べて大きく、2011年および2019年においてはほぼ一致していることを明らかにした。この成果は、現在、国際学術誌に投稿中であり、ロシア極東の国境地域に関する土地収奪に関する研究に一石を投じる研究になると自負している。この研究成果は、チェコ共和国パレツキー大学の中露国境地域研究グループが主催するオンラインのワークショップなどで発表し、手応えを得ている。

以上の核心的な研究成果に加え、新型コロナウイルス感染が広がり、国境を通じた人の移動が停止した2021年において、ロシア極東のユダヤ自治州国境地域で中国人労働力の活用ができなくなり、同時に、大豆生産を担う中国企業の経営者が播種計画を実行できなかったことが、地域の大豆生産に与えた影響を明らかにした研究成果を環日本海経済研究所が発刊するERINA REPORT PLUSに発表した。また、本研究の底流にあるロシアの移民政策を精査するため実施した研究の成果を比較経済体制学会の査読雑誌『比較経済研究』に投稿し、掲載されるなど、コロナ禍のなか、派生的研究業績を積み上げることができた。

< 引用文献 >

- Akaha, T. and A. Vassilieva, 2005, Crossing National Borders: Human Migration Issues in Northeast Asia, United Nations University Press.
- Barnes, T., and R. Hayter, 2005, No "Greek-Letter Writing": Local Models of Resource Economies, Growth and Change, Vol. 36, No. 4, pp. 453-470.
- Horie, N. 2022, Chinese Land Deals and Migration in the Russian Far East. A. Iwashita, Y. Ha and E. Boyle eds., Geo-Politics in Northeast Asia, Routledge (forthcoming).
- Kortelainen, J. and P. Rannikko, 2014, Positionality Switch: Remapping Resource Communities in Russian Borderlands, Economic Geography, Vol. 91, No. 1, pp. 59-82.
- Sheppard, E., 2013, Thinking through the Pilbara, Australian Geographer, Vol. 44, No. 3, pp. 265-282.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Norio Horie	4. 巻 -
2. 論文標題 Chinese Land Deals and Migration in the Russian Far East	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 A. Iwashita, Y. Ha and E. Boyle eds., Geo-Politics in Northeast Asia, Routledge (forthcoming) 所収	6. 最初と最後の頁 forthcoming
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003288039-9	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 堀江典生	4. 巻 -
2. 論文標題 タジキスタンで考える農村コミュニティ維持における在外同郷人の役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 本村真編著『辺境コミュニティの維持：島嶼、農村、高地のコミュニティを支える「つながり」』ポーター インク 所収	6. 最初と最後の頁 219-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 堀江典生・山田孝子	4. 巻 -
2. 論文標題 辺境のコミュニティ維持機能	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 本村真編著『辺境コミュニティの維持：島嶼、農村、高地のコミュニティを支える「つながり」』ポーター インク 所収	6. 最初と最後の頁 9-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Norio Horie and Olesya V. Veredyuk	4. 巻 -
2. 論文標題 GATS Mode 4 in Russia's migration policy: liberalization and its limitation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sergei F. Sutyurin, Olga Y. Trofimenko and Alexandra G. Koval eds., Russian Trade Policy: Achievements, Challenges and Prospects, NY: Routledge 所収	6. 最初と最後の頁 264-282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9780429264979	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀江典生	4. 巻 58[2]
2. 論文標題 多国間自由貿易と人の移動の自由：EU，EAEU，WTOからの省察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較経済研究	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5760/jjce.58.2_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 堀江典生	4. 巻 162
2. 論文標題 ロシアにおける新型コロナウイルス感染拡大と外国人労働者	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ERINA REPORT PLUS	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 堀江典生	4. 巻 67(1)
2. 論文標題 タジキスタン：変わらぬ経済と南南連結への期待	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ロシアNIS調査月報	6. 最初と最後の頁 99-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀江 典生	4. 巻 第3部第1章
2. 論文標題 ロシアにおける移民のランドスケープ：ルイナックと反移民感情	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 羽場久美子編著『移民・難民・マイノリティ：欧州ポピュリズムの根源』彩流社 所収	6. 最初と最後の頁 297-322
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀江 典生	4. 巻 -
2. 論文標題 ロシア東部のルイナックにみるエスノランドスケープ：中国的なるものの進化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岡洋樹編『移動と共生の北東アジア：中蒙露朝辺境にて』東北大学東北アジア研究センター 所収	6. 最初と最後の頁 213-244
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norio Horie	4. 巻 -
2. 論文標題 Migrant landscapes in marketplaces: Regional comparison	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Angelina Vaschuk ed. Reforms of the late 20th - early 21st century in the post-Soviet space: Regional aspect, Vladivostok: IHAE FEB RAS 所収	6. 最初と最後の頁 244-249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norio Horie	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 Contested Space in the Russian Far East: Land and Migration along the Russo-Chinese Borderlands	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Eurasia Border Review	6. 最初と最後の頁 85-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14943/ebr.10.1.85	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松野 周治・堀江 典生・三村 光弘	4. 巻 281
2. 論文標題 鼎談：北東アジア経済圏の現実と展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済	6. 最初と最後の頁 109-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀江 典生	4. 巻 102
2. 論文標題 書評： 1915-1919	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 121-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀江 典生	4. 巻 -
2. 論文標題 海外に活路を見いだす出稼ぎ労働者たち：その暮らしと故郷との絆	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ウズベキスタンを知るための61章』明石書房	6. 最初と最後の頁 312-316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 堀江典生
2. 発表標題 長城化した陸上国境：外国人労働者受入停止がロシア経済に与えた影響
3. 学会等名 一橋大学経済研究所共同利用共同研究拠点・ロシア研究センター共催コンファレンス「新興市場の動態把握：社会構造を揺るがす危機と変革」, 一橋大学 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Norio Horie
2. 発表標題 COVID-19 and its Impact on the Borderland in the Russian Far East: A Disconnected Northeast Asia
3. 学会等名 The Fourth Tohoku Conference on Global Japanese Studies, Tohoku University (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Norio Horie
2. 発表標題 Chinese Land Deals and Migration in the Russian Far East: Positionality Changes in the Borderlands
3. 学会等名 Sinofone Borderlands Workshop: Land Use in the Russian Eastern Borderlands, Palacky University (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Norio Horie, Naoya Wada and Shishir Sharmin
2. 発表標題 Soy Bean Production and Land Use Changes in the Russian Eastern Borderlands
3. 学会等名 Sinofone Borderlands Workshop: Land Use in the Russian Eastern Borderlands, Palacky University (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Horie, Norio
2. 発表標題 Chinese Land Deals and Migration in the Russian Far East: Positionality Changes in the Borderlands
3. 学会等名 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター2020年度国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀江 典生
2. 発表標題 多国間自由貿易と人の移動の自由: EU, EAEU, WTOからの省察
3. 学会等名 比較経済体制学会第60回全国大会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名
2. 発表標題
3. 学会等名 XI International scientific and practical forum “ Migration bridges in Eurasia: New approaches to the formation of migration policy on behalf of the sustainable development ” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Norio Horie, Naoya Wada, Shishir Sharmin and Svetlana Mishchuk
2. 発表標題 Project Report: Changing Land Usage in the Russian Eastern Borderland: Evidence Based on Remote Sensing Data
3. 学会等名 極東地域研究センター主催国際コンファレンス ” Sustainable Development in China and Russia ” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀江典生
2. 発表標題 ロシアにおける移民のランドスケープ：ルイナックと反移民感情
3. 学会等名 ロシア・東欧学会2019年研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Norio Horie
2. 発表標題 Migrant landscape in Russia: marketplaces and anti-migrant sentiments
3. 学会等名 International Conference “ Evolution of International Trading System: Prospects and Challenges ” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Norio Horie
2. 発表標題 Migrant landscape in Russia: marketplaces and anti-migrant sentiments
3. 学会等名 The annual international forum "Society, Trust, Risks: Trust to migration processes. Risks of the new society" (State University of Management, Moscow) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀江典生
2. 発表標題 ロシアにおける反移民感情のランドスケープ
3. 学会等名 北東アジア学会第25回学術研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀江典生
2. 発表標題 移民大国ロシアから考える地域社会の移民問題
3. 学会等名 北陸4大学連携まちなかセミナー(福井大学)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀江典生
2. 発表標題 中露関係を前提とした北東アジアの再構築：ロシアの戦略を読み解く
3. 学会等名 環日本海国際学術交流協会学術交流セミナー(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Norio Horie
2. 発表標題 Changing Chineseness in Russia
3. 学会等名 "ペテルブルク国立大学東洋学部(招待講演) XX-XXI ";サンクト
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

富山大学研究推進機構極東地域研究センター http://www3.u-toyama.ac.jp/cfes/

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 極東地域研究センター主催国際コンファレンス " Sustainable Development in China and Russia "	開催年 2019年 ~ 2019年
---	----------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ロシア連邦	IDR FCTAS RAS	ICARP FEB RAS	